



NISSAY

日本生命保険相互会社

Nippon Life Insurance Company

# Sustainability Report 2018

サステナビリティ  
レポート2018

抜粋版

安心・安全で持続可能な社会に向けて





## 目次

目次／編集方針	01
トップメッセージ	03
日本生命の社会貢献活動	05
日本生命のサステナビリティ重要課題	07
取組紹介	09
お客様	09
地域・社会	11
環境	13
従業員	15
日本生命におけるサステナビリティ経営	17
SDGs達成に向けた取組	19
SDGs(持続可能な開発目標)とは	20
社外からの評価／イニシアティブへの参画	21
会社概要	22

サステナビリティを追求すること  
それは、ずっと先の世代まで、  
豊かな社会を繋いでいくこと

### 編集方針

当冊子は、安心・安全で持続可能な社会の実現に向けた当社の取組について、様々なステークホルダーの皆様に分かりやすくお伝えすることを目的に、オフィシャルHP「CSRへの取組」の掲載内容を抜粋・簡素化して再構成したものととなります。記載内容の詳細につきましては、オフィシャルHP「CSRへの取組」をご覧ください。

日本生命保険相互会社オフィシャルHP「CSRへの取組」

<https://www.nissay.co.jp/kaisha/csr/>

「サステナビリティレポート2018」(PDF) ※当社オフィシャルHP「CSRへの取組」をPDF化したものととなります。

<https://www.nissay.co.jp/kaisha/csr/library/>

- |                              |                               |
|------------------------------|-------------------------------|
| ■ 報告対象組織：日本生命保険相互会社          | ■ 参考にしたガイドライン等：               |
| ■ 報告対象期間：                    | • GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード2016 |
| 2017年度(2017年4月1日～2018年3月31日) | • ISO26000(社会的責任に関する手引き)      |
| ※一部、対象期間外の活動内容を含む            | • 環境省「環境報告ガイドライン2012年版」       |
|                              | ■ 発行：2018年11月                 |



# あらゆる企業活動を通じて、 サステナブル(持続可能)な 社会をつくる

変化を積極的に取り込み、お客様と社会に誠実に向き合う



代表取締役社長  
清水 博

## サステナビリティへの貢献は 企業活動そのもの

日本生命は1889年7月4日の創業から今日まで、「共存共栄」「相互扶助」の精神に基づき、堅実な経営に努めてまいりました。

この間、平成に入ってからだけでも阪神・淡路大震災や東日本大震災など、幾多の試練に直面しましたが、どのようなときも、生命保険事業を通じて国民生活の安定と向上に寄与するとの固い信念を貫いてまいりました。

一方で、現代社会に目を向けると、歴史に例を見ない超高齢化や、IT技術の革新など、かつてないスピード感で変革の時代を迎えています。また、貧困や格差、気候変動問題など、世の中を取り巻く課題は実に多様化・深刻化しております。

このような不確実な時代だからこそ、広く社会に目を向け、お客様はもとより、様々なステークホルダーの声に耳を傾けていくことが重要です。そして、誠実な企業として、あらゆる企業活動を通じて、社会のサステナビリティ(持続可能性)の向上に貢献していきたいと思えます。それが、結果的に、お客様からの信頼に繋がり、更には当社の長期的な成長に繋がっていくと信じています。

## 生命保険とSDGs

2015年に、国連総会でSDGs(持続可能な開発目標:Sustainable Development Goals)が採択されました。これにより、「誰一人取り残さない」という考えのもと、地球規模の課題を、2030年までに国際社会全体で解決していこうという大きな流れができました。このSDGsの達成には、企業の役割が不可欠です。

SDGsには17の目標が掲げられていますが、例えばその1つめの目標は、「貧困をなくそう」です。生命保険事業は、新たな社会的弱者を生まないための助け合いの仕組みであり、国内外への生命保険の普及は「貧困や格差をなくす」というSDGsの目標に一致し



ます。日本生命が過去から脈々と受け継ぎ、そして発展させてきた活動は、SDGsが目指す社会を実現していく活動そのものだと思っています。

## 2030年の豊かな未来を創造する

時代は多様化し、当社も今では、生命保険だけでなく様々な商品・付帯サービスを提供しているほか、お客様へのサービス体制の充実、ESG投融資<sup>※</sup>の拡大、子育て支援や高齢社会対応、健康増進支援など、様々な形で社会的役割を果たしております。

ステークホルダーからの多様な期待にどう応えていくのか。これを明確にするために、当社は2018年度、SDGsを含む昨今の社会情勢や事業環境の変化も踏まえ、18項目のサステナビリティ重要課題を特定しました。併せて「環境・社会貢献委員会」を「サステナビリティ経営推進委員会」に改編し、持続可能な社会の実現に向けた体制を強化しています。

当社は、この18項目の重要課題に、7万人の全役員・職員一丸となって取り組むことで、SDGs達成に貢献するとともに、ステークホルダーからの多様な期待に応えてまいります。

「国民生活の安定と向上に寄与する」という創業の精神を、今こそ改めて強く認識し、SDGs達成の年である2030年、更にその先の未来に、安心・安全で持続可能な社会を実現していけるよう、全力で取り組んでまいります。

<sup>※</sup> 環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の課題に配慮した投融資



## サステナビリティ経営の根底に流れる

# 共存共栄・相互扶助の精神を受け継ぐ

# 7万人による持続可能な社会づくり

生命保険事業の根底にあるものは、相互扶助の精神です。

当社は、1889年の創業当初、保険に加入されたお客様に「被保険者証票」を交付し、これを提示すれば、無料で診査医の診察を受けられる制度を導入していました。また、お客様のみならず広く社会一般の健康増進・衛生観念の普及にも力を注ぎ、明治20年代にコレラなどの疫病が猛威を振るうなかであって、当社は再三にわたってコレラ予防のパンフレットなどを発行していました。

ここに、当社のサステナビリティ経営の原点があると考えています。

現在、当社では、7万人の全役員・職員が「共存共栄」「相互扶助」の精神を受け継ぎ、高い使命感と誇りを持って自らの職務に取り組んでいくための人財育成の一環として、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。持続可能な社会づくりに向けた当社のサステナビリティ経営は、こうした一人ひとりの活動が原動力となっています。

### がん検診受診率向上のための取組

自治体の行う「がん検診」の受診率向上のために、当社職員が各市町村の提供するがん検診情報を地域の方々にお伝えしています。



がん検診受診啓発イベント

### 植樹・育樹活動

全国187カ所に広がる“ニッセイの森”で植樹・育樹に取り組んでおり、その苗木代や活動経費も寄付によりまかっています。



### 地域の清掃活動

就業開始前の時間帯を活用し、事業所周辺のゴミ拾いを定期的に行っています。また、環境省が推奨する「ごみゼロクリーンキャンペーン」等の活動に参加しています。



### 障がい者スポーツの観戦やボランティア

多くの職員が、積極的に障がい者スポーツの観戦やボランティアに参加しています。



## 支え合う みらいへ

### 熱中症予防に向けた取組

環境省が推進している「熱中症予防 声かけプロジェクト」に賛同し、全国各地で熱中症予防の声かけ活動を実施しています。



### スポーツ教室の開催

当社の野球部と卓球部によるスポーツ教室を開催しています。開催各地域の支社が、学校などに呼びかけて参加者を募り、事前準備や当日の運営に協力しています。



### 高齢者見守り活動

自治体と提携し、当社職員が地域の方の異変に気付いた際に市町村の窓口へ連絡する等、地域の見守り活動に協力しています。



自治体発行の高齢者見守り啓発ビラ(例)

### 中高生向けの出前・受入授業

当社職員が講師となり、「ライフデザイン」や「家計管理」、「支え合い」等をテーマにした授業を行っています。

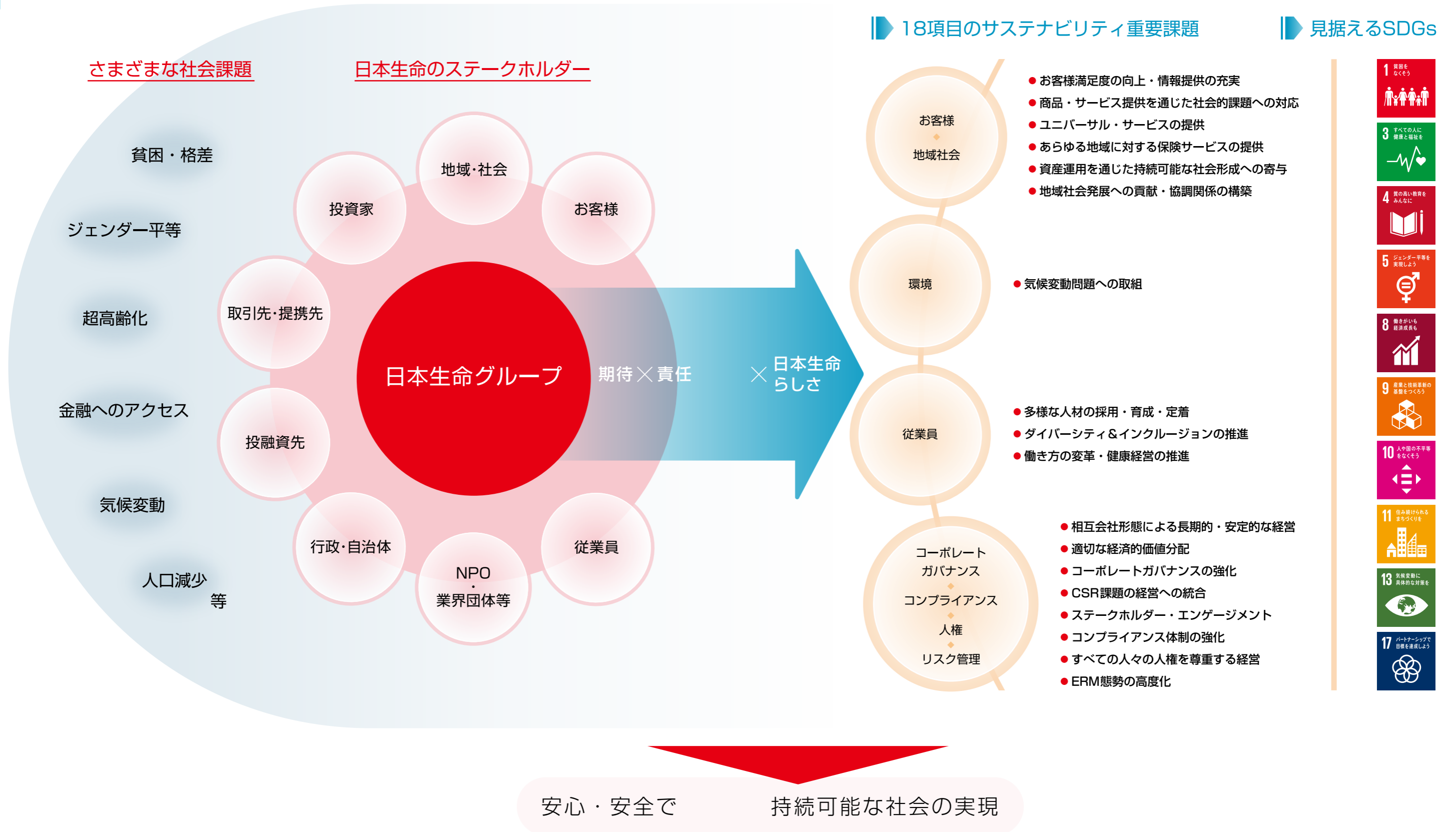


# 日本生命のサステナビリティ重要課題

企業やステークホルダーを取り巻く環境は常に変化し、社会的課題は多様化しています。このような時代において、ステークホルダーの期待にお応えし、当社ならではの価値を提供していくために、「サステナビリティ重要課題」を特定しました。当社は、SDGs(持続可能な開発目標)達成への貢献も見据えながら、安心・安全で持続可能な社会の実現に向けて、ステークホルダーの皆様と共に歩んでまいります。

## 18項目のサステナビリティ重要課題

## 見据えるSDGs







# お客様

## 次ページの取組に関連するサステナビリティ重要課題

- お客様満足度の向上・情報提供の充実
- 商品・サービス提供を通じた社会的課題への対応
- ユニバーサル・サービスの提供

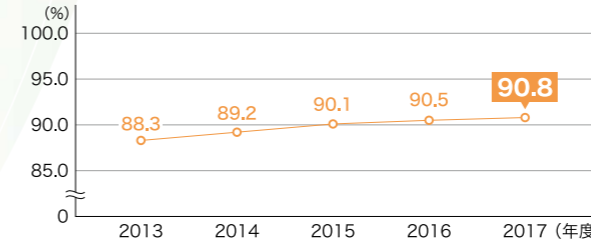
## お客様満足度 90.8%



「お客様の声」に学び、活かす取組を継続的に実施した結果、2017年度の「お客様満足度調査」では総合満足度が90.8%（対前年+0.3%）となりました。

今後も、当指標の中長期的なトレンドを用いて、お客様の声に耳を傾け、当社の全業務分野において、経営の改善に努めていきます。

### 総合的なお客様満足度



### お客様から寄せられた声(苦情)の件数

年度	2015年度	2016年度	2017年度
件数	78,005	66,316	59,510

## 生活習慣病 をトータルにサポート



2018年4月に、生活習慣病等に備える保険、ニッセイらしいカタチ 特定重度疾病保障保険「だい杖ぶ」を発売しました。

また、ずっともっとサービスにおいて、お客様の健康増進を支援する「歩いて貯めるマイル」「健康継続ボーナス」や、「健康介護あんしんダイヤル」への「生活習慣病サポートメニュー」といった生活習慣病予防に向けたサービスを新設しました。

社会的課題である生活習慣病への対応をトータルにサポートする商品・サービスの提供を通じ、健康寿命の延伸を応援していきます。



「歩いて貯めるマイル」に利用するスマートフォンアプリ「aruku&(あるくと)」(運営会社:株式会社マビオン)

## 業界 No.1 を目指した高齢者サービス



超高齢化が社会的課題となる中、“明るい長寿時代”のサポートを目指した「Gran Ageプロジェクト」を推進しています。



### ■ご契約情報家族連絡サービス

契約者によるお手続き等のお問合せが困難になった場合に備え、ご家族を登録いただき、そのご家族にもご契約の情報をお知らせするサービスです。

■高齢のお客様を対象とした専用ダイヤル(シニアほっとダイヤル) 高齢のお客様に伝わりやすい電話応対スキルの専門研修を受講したオペレーターに直接つながり、わかりやすく丁寧な対応に努めています。

### ■ニッセイご遺族あんしんサポート

被保険者の死亡に伴い必要となる「手続・税金等に関する電話相談」等をご利用いただける無料サービスに加え、お手続内容に応じた専門家(有料)をご案内しています。

シニアほっとダイヤル  
0120-147-369

「147」「369」と、  
押し間違いを軽減させる配列





SDGsのロゴは、当社が貢献につながると考える主なゴールです。



## 企業主導型保育所 全国100カ所へ



待機児童問題という社会的課題の解決に向けて、2017年4月よりニチイ学館と協働で企業主導型保育所の全国展開を開始しました。全国約100カ所の展開に向けて、2018年度には全都道府県計69カ所での設置を完了する予定です。

当社とニチイ学館は、自社従業員だけでなく、地域住民や一般企業等幅広く利用者を募っていく方針であり、女性の活躍推進を一層支えることで社会的課題の解決に貢献していきます。



## ESG債等への投融資目標 7,000億円

従来より、お客様からお預かりした保険料の運用において、生命保険事業の特性をふまえ、公共性に配慮した資産運用を行っています。近年では、パリ協定やSDGs等のグローバルな流れもふまえ、ESG投融資\*を積極的に推進しており、2020年度までに7,000億円の投融資目標を設定しています。

今後も引き続き、SDGsに掲げる様々な目標の達成に向けて、資金提供の面から支援することで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

\* 環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の課題に配慮した投融資

### ESG投融資事例

オーストラリアでの海水淡水化プラント運営プロジェクトへの融資(2017年10月)



出典：AquaSure PtyLtd.

国際金融公社(IFC)のソーシャルボンドへの投資(2017年7月)



## 地域・社会

次ページの取組に関連する  
サステナビリティ重要課題

- 資産運用を通じた持続可能な社会形成への寄与
- 地域社会発展への貢献・協調関係の構築

## 自治体と連携した地域活性化 26都道府県と締結



都道府県との「包括的連携協定\*」をはじめ、市町村とのがん対策や健康増進など個別項目に絞った「個別連携協定」に至るまで、官民協働を通じ地域社会への貢献を目的とした取組を進めています。とりわけ、「包括的連携協定」は2018年度上半期までに26都道府県と締結しました。

協定を通じて、高齢社会対応・健康増進・子育て支援・青少年の健全育成等、幅広い分野で地域活性化に貢献していきます。

\* 包括的連携協定：地域が抱える社会課題に対して、自治体と企業が双方の強みを生かし協力しながら課題解決に対応する枠組みのこと





## 保険事業における環境取組



紙資源の使用削減のため、2012年4月発売開始の商品から、「約款」のCD-ROMでの提供を開始しました。更なる環境負荷軽減を推進するため、2018年4月より、当社オフィシャルホームページでの提供を開始しました。

また、「ずっともっとサービス」で貯まったサンクスマイルの交換メニューに、環境保全団体である世界自然保護基金(WWF)への寄付を組み込んでおり、2017年度の寄付額は252万円となりました。



約款のWeb化



サンクスマイルを通じた寄付

©1986 Panda symbol WWF-World Wide Fund For Nature (Formerly World Wildlife Fund) ®“WWF” is WWF-World Wide Fund For Nature (Formerly World Wildlife Fund) Registered Trademark

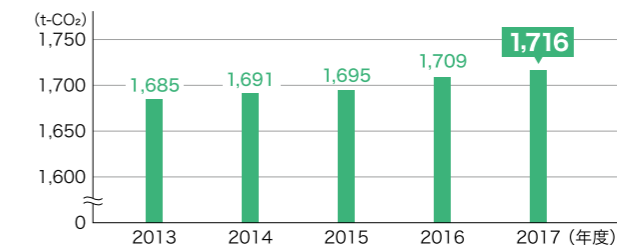
## “ニッセイの森”のCO<sub>2</sub>削減効果 1,716t-CO<sub>2</sub>



かけがえのない地球環境を次世代へ引き継ぐことを願い、(公財)ニッセイ緑の財団と共に1992年より森づくりを開始し、役員・職員がボランティアとして参加しています。

これまでに植えた苗木は131万本を超え、“ニッセイの森”は43都道府県の187カ所(約435ha)に広がっています。林野庁の試算により、2017年度単年度の“ニッセイの森”のCO<sub>2</sub>吸収・固定効果は1,716t-CO<sub>2</sub>、洪水防止や水質浄化等の効果も含めた環境貢献度は9,603万円と評価されています。

CO<sub>2</sub>削減量



## 環境

次ページの取組に関連する  
サステナビリティ重要課題

- 気候変動問題への取組

## 東京グリーンボンドへの投資



2017年10月、国内自治体初のグリーンボンドとなる「東京グリーンボンド」(発行：東京都)に投資しました。グリーンボンドは環境事業に資金用途を限定した債券であり、世界的に急速に市場が拡大しています。当債券による調達資金は、東京都が推進する「スマートエネルギー都市づくり」(都有施設の改築・改修)等に活用されます。

当社は、グリーンボンドの普及を目的に環境省が策定した「日本版グリーンボンド原則」の検討会にも投資家として参画し、国内グリーンボンド市場の活性化に努めてきました。



写真提供：東京都





## 男性の育児休業取得率 5年連続 100%



従業員がキャリア全体を通じてその意欲・能力を最大限発揮できるよう、女性やシニアの活躍推進、障がい者雇用、多様性を受容する組織風土づくりなどを通じて、働きがいのある職場づくりに取り組んでいます。

例えば、女性が活躍するためには、周囲の理解が重要であり、男性の育児・家事参画を通じて女性の働き方の理解を深めるために、2013年度より男性の育児休業取得推進に取り組んでいます。2017年度までに、5年連続で取得率100%を達成しています。



男性育児の取得推進

## 働き方改革に向けた取組



多様な人材が長きにわたり前向きに活躍していくためメリハリある働き方の定着に向けた取組を進めています。

例えば、1週間に1回の「フレッシュアップデー(ノー残業デー)」運営や1か月に1回自身の成長に繋げる時間の捻出を目的とした「ブラッシュアップデー」運営を実施し、早帰りの促進やワークライフマネジメントの実現に向けた休暇取得を推進しています。また、2017年度より資格取得や健康増進を目的とした能力開発支援プログラム「ニッセイアフタースクール」を展開し、労働時間の圧縮により捻出した時間を自己成長に活かせるような環境を整備しています。



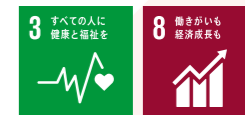
ニッセイアフタースクール

## 従業員

次ページの取組に関連する  
サステナビリティ重要課題

- 多様な人材の採用・育成・定着
- ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- 働き方の変革・健康経営の推進

## 健康経営の推進



役員・職員の健康増進、働き方改革に向けたワークライフマネジメントの実践を通じて、健康経営を推進しており、2018年9月には「健康経営の目指す姿」を策定し、取組を進めています。

例えば、運動習慣の定着を図る取組の一環として、2018年6月に役員・職員を対象としたウォーキングイベント「ニッセイ・ウォーキングフェスタ」を開催し、3万名以上が参加、総歩行距離は約120万kmにおよびました。

こうした健康経営の取組を通じ、健康で長く活躍できる人材の育成に努め、地域・社会に貢献していきます。





# 日本生命におけるサステナビリティ経営

## ～持続可能な社会づくりに向けて～

### サステナビリティ経営の考え方

当社は、経営基本理念に基づき、生命保険事業は、お客様ひいては国民生活、そして社会を支える使命を帯びた公共性の高い事業であるという認識のもと、企業活動を行っています。また、様々なステークホルダーとの対話を通じて、社会からの期待や社会的課題に対する認識を深めるとともに、あらゆる企業活動においてバリューチェーン全体を通じて「安心・安全で持続可能な社会」の実現に貢献し、企業価値の向上を目指します。

取組にあたっては、ステークホルダーからの期待と当社事業との関連性の両軸から選定した「サステナビリティ重要課題」に重点を置き、サステナビリティ経営を推進していきます。

### サステナビリティ重要課題の取組状況

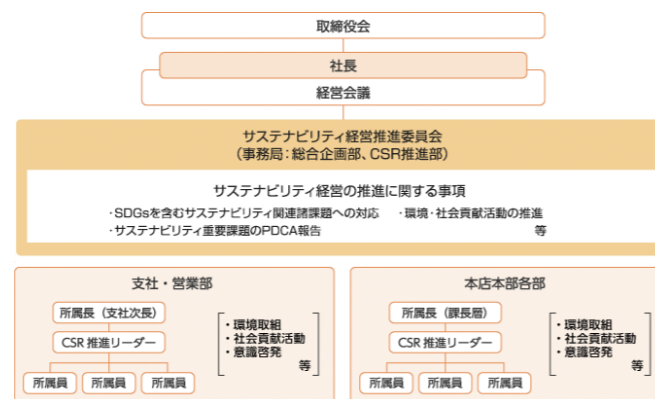
サステナビリティ重要課題への取組状況は、オフィシャルHPにて毎年度公表しています。

詳細は、以下のURLをご覧ください。

<https://www.nissay.co.jp/kaisha/csr/management/pdf/importantissue.pdf>  
(TOP ⇒ 日本生命について ⇒ CSRへの取組 ⇒ 日本生命におけるサステナビリティ経営)

### サステナビリティ経営推進体制

2018年度より、経営会議の諮問機関として「サステナビリティ経営推進委員会」を立ち上げ、SDGsを含むサステナビリティ関連諸課題への対応や、サステナビリティ重要課題のPDCA 報告等を付議し、サステナビリティ経営を推進しています。また、支社や本店本部各部に、CSR推進リーダーを配置し、所属長のもと、節電や省資源、社会貢献活動を含むサステナビリティ関連諸課題に関する取組を推進しています。



### 日本生命の主なステークホルダー

当社の企業活動は、様々なステークホルダーとの関わりのもとに成り立っています。当社を取り巻くステークホルダーとの継続的な対話を重視し、社会からの期待や社会的課題に対する認識を深め、企業活動に反映させていくことで、安心・安全で持続可能な社会づくりに貢献しています。

ステークホルダー	概要
お客様	当社には、1,184万名、23.6万企業のお客様がいます。
地域・社会	当社は、地域・社会と共生し、全国各地で事業を展開しています。
投資家	当社は、株式会社の資本金にあたる「基金」等を投資家から調達しています。
取引先・提携先	税理士、保険専業代理店、提携金融機関など、1.7万店の代理店がいます。また、様々な企業や団体と提携し、事業を展開しています。
投融資先	国内外の様々な企業に投融資を行っています。保有不動産には、様々なテナント企業に入居いただいています。
行政・自治体	行政による監督・管轄を受けています。また、全国の都道府県や市町村と連携協定を結んでいます。
NPO・業界団体等	様々なNPOと提携しています。また、業界団体に所属し、共に活動しています。
従業員	当社には7万人の従業員がいます。

### サステナビリティ重要課題の特定プロセス

当社は、2015年に、ステークホルダーからの期待と当社事業との関連性の両軸から、以下のプロセスで16項目のCSR重要課題(マテリアリティ)を特定しました。その後、SDGs(持続可能な開発目標)の採択やパリ協定の発効など国際社会の潮流や意識の変化を受けて、2018年にCSR重要課題を改定し、18項目のサステナビリティ重要課題を特定しました。



2018年改定・サステナビリティ重要課題(18項目)  
P.7「日本生命のサステナビリティ重要課題」参照

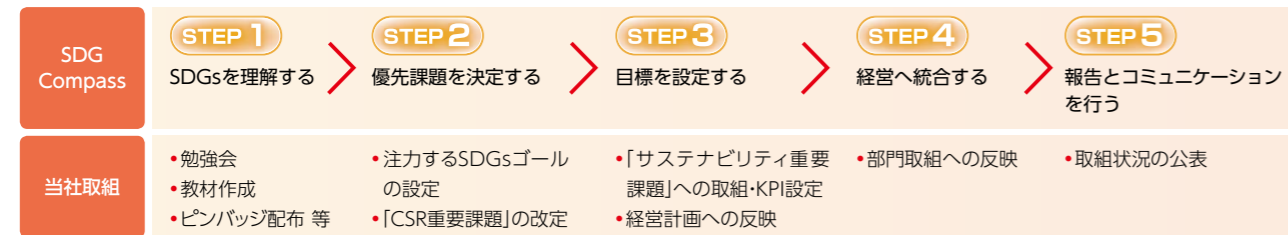


# SDGs達成に向けた取組

## SDGs達成に向けた取組プロセス

当社は、国連関連機関\*が発行したSDGsの企業行動指針「SDG Compass」に則って、SDGsの達成に向けた取組を進めています。

\*企業のサステナビリティ報告の普及・促進を行うGRI、国連グローバル・コンパクト、持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)の3機関



### STEP 1 SDGsを理解する

「SDG Compass」のステップ1は、「SDGsを理解すること」であり、社内の理解・浸透に向けて、以下のような様々な啓発活動を展開しています。

- ・役員勉強会の開催 (2017年12月)
- ・職員向けの教材作成 (2018年5月)
- ・SDGsピンバッジの社内幹旋
- ・WEB研修や社内勉強会の開催
- ・SDGsカードゲーム体験学習セミナーの開催 (2018年5月～)



職員向けの教材「SDGsの理解に向けて」



SDGsピンバッジ



ニッセイアフタースクール(社内勉強会)



SDGsカードゲーム体験学習セミナー

### STEP 2 優先課題を決定する

ステップ2「優先課題の決定」については、17ゴールと当社取組をマッピングし、以下の4つの視点から10ゴールを特定しました。



マッピングのうえ、以下の4つの視点で選定

- 事業戦略との整合性
- 日本生命ならではの貢献ができるか
- サステナビリティ重要課題との関連性
- SDGs達成への貢献度(インパクト)

#### 10ゴールを選定



また、SDGsへの取組を踏まえ、マテリアリティを、「CSR重要課題」から「サステナビリティ重要課題」に名称変更のうえ、「すべての人々の人権を尊重する経営」「気候変動問題への取組」の2項目を追加し、18項目としました。

### STEP 3~5 目標設定 / 経営への統合 / 報告とコミュニケーション

今後は、「サステナビリティ重要課題」への具体的な取組内容やKPIを設定し、経営計画に反映していきます(ステップ3「目標を設定する」)。また、設定した目標を様々な部門の取組に反映していきます(ステップ4「経営へ統合する」)。取組状況については、オフィシャルHP等で毎年公表していくとともに、ステークホルダーとの対話を進めていきます(ステップ5「報告とコミュニケーションを行う」)。

## エスディーゼーズ SDGs(持続可能な開発目標)とは

SDGs(持続可能な開発目標:Sustainable Development Goals)とは、2015年9月に国連総会で採択された、2030年までに達成を目指す17の目標です。「貧困」「健康と福祉」「ジェンダー平等」「働きがい」「気候変動」等、あらゆる国で取組む目標です。



<b>1 貧困をなくそう</b> 	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	<b>2 飢餓をゼロに</b> 	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する	<b>3 すべての人に健康と福祉を</b> 	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
<b>4 質の高い教育をみんなに</b> 	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する	<b>5 ジェンダー平等を実現しよう</b> 	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	<b>6 安全な水とトイレを世界中に</b> 	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
<b>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</b> 	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	<b>8 働きがいも経済成長も</b> 	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する	<b>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</b> 	強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
<b>10 人や国の不平等をなくそう</b> 	各国内及び各国間の不平等を是正する	<b>11 住み続けられるまちづくりを</b> 	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する	<b>12 つくる責任 つかう責任</b> 	持続可能な生産消費形態を確保する
<b>13 気候変動に具体的な対策を</b> 	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	<b>14 海の豊かさを守ろう</b> 	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する	<b>15 陸の豊かさを守ろう</b> 	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
<b>16 平和と公正をすべての人に</b> 	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する	<b>17 パートナリシップで目標を達成しよう</b> 	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化		



## 社外からの評価

CSR全般  
東洋経済「CSR企業ランキング」2018  
金融部門第1位

ニッセイ就業不能保険(無解約払戻金)「もしものときの…生活費」  
2017年 第28回 読者が選ぶネーミング大賞  
タイムリーネーミング賞

ニッセイ出産サポート給付金付 3大疾病保障保険「ChouChou!」  
2017年日経優秀製品・サービス賞 最優秀賞 日経ヴェリタス賞

ニッセイ確定拠出年金コールセンター・確定拠出年金インターネット  
HDI-Japan「HDI五つ星認証プログラム」五つ星認証  
(コールセンターは6年連続、インターネットは3年連続)



グリーンな金融市場の拡大への貢献  
グリーン市場拡大のためのグリーン購入大賞(第18回)  
大賞・環境大臣賞受賞

日本生命静岡ビル、スタートラム広島  
DBJ Green Building認証 four stars / BELS ☆☆☆



中学生・高校生向け「出前授業」「受入授業」  
平成29年度 青少年の体験活動推進企業表彰  
審査委員会奨励賞(大企業部門)  
教育応援グランプリ2017 金賞

日経WOMAN 女性が活躍する会社 BEST100  
ダイバーシティ推進度 第1位(2018)  
ワークライフバランス度 第1位(2017)



LGBTに関する取組  
PRIDE指標2018 ゴールド評価

健康増進に向けた取組  
「健康経営優良法人2018(大規模法人部門)(ホワイト500)」



## イニシアティブへの参画

国連グローバル・コンパクト(GC)  
WE SUPPORT  
UN GLOBAL COMPACT

女性のエンパワメント原則(WEPEs)  
We Support  
EMPOWERMENT PRINCIPLES  
EQUALITY MEANS BUSINESS  
UN WOMEN  
UNITED NATIONS  
GLOBAL COMPACT  
www.wepinciples.org

国連責任投資原則(PRI)  
Signatory of:  
PRI Principles for Responsible Investment

## 会社概要

名称	日本生命保険相互会社	事業所 (2017年度末)	支社等 営業部 海外事務所 代理店*	108 1,536 4 16,536
本店所在地	〒541-8501 大阪府大阪市中央区今橋3-5-12		※「代理店数」には、銀行等の金融機関代理店等を含みます。	
代表取締役社長	清水 博	子会社等 (2017年度末)	保険および保険関連事業 資産運用関連事業 総務関連事業等	18社 48社 10社
創立	1889年7月4日			
従業員数 (2017年度末)	71,871名			

### ■総資産(2017年度末)

### ■自己資本(2017年度末)

[連結] 74兆3,925億円

[単体] 5兆8,190億円

[単体] 66兆4,726億円

### ■格付け(2018年8月20日現在)

[単体]	<b>AA</b> 格付投資情報センター (R&I) (保険金支払能力)	<b>AA</b> 日本格付研究所 (JCR) (保険金支払能力格付)	<b>A+</b> S&Pグローバル (S&P) (保険財務力格付け)	<b>A1</b> ムーディーズ (Moody's) (保険財務格付)
------	---	--	--	--

<p>格付水準</p> <table border="1"> <tr><td>AAA</td></tr> <tr><td>AA</td></tr> <tr><td>A</td></tr> <tr><td>BBB</td></tr> <tr><td>BB</td></tr> <tr><td>B</td></tr> <tr><td>⋮</td></tr> </table> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">高いとされています。</p>	AAA	AA	A	BBB	BB	B	⋮	<p><b>R&amp;Iの定義「AA」</b> <a href="http://www.r-i.co.jp">http://www.r-i.co.jp</a> 保険金支払能力は極めて高く、優れた要素がある。</p> <p><b>JCRの定義「AA」</b> <a href="http://www.jcr.co.jp">http://www.jcr.co.jp</a> 債務履行の確実性は非常に高い。</p> <p><b>S&amp;Pの定義「A」</b> <a href="http://www.standardandpoors.co.jp">http://www.standardandpoors.co.jp</a> 保険会社が保険契約債務を履行する能力は高いが、上位2つの格付けに比べ、事業環境が悪化した場合、その影響をやや受けやすい。</p> <p><b>Moody'sの定義「A」</b> <a href="http://www.moody's.co.jp">http://www.moody's.co.jp</a> 中級の上位と判断され、信用リスクが低い債務に対する格付。</p>
AAA								
AA								
A								
BBB								
BB								
B								
⋮								

格付けとは、第三者である格付会社が、保険会社の保険金を支払う能力等に対する確実性を評価したものです(保険金支払等について保証を行うものではありません)。

※格付けは、取得日現在までの数値、情報にもとづいており、将来的には変化することがあります。  
※格付けは、詳細な情報にもとづき、より適正に評価していただくため、当社が正式に依頼してR&I、JCR、S&P、Moody'sから取得したものです。  
※格付けに付加されているプラス記号(+)、マイナス記号(-)、および数字記号は、それぞれ格付けカテゴリ内での相対的な強さを表します。



“大切な人を想う”の  
いちばん近くで。



日本生命



## 生命保険のお手続きやお問合せにつきましては

インターネットでのお問合せ <https://www.nissay.co.jp>

ご住所の変更等のお手続きやご契約内容の照会、資料請求、ご相談等を受付けています。

日本生命

検索

電話でのお問合せ

[ニッセイコールセンター]

**0120-201-021** (通話料無料)

受付時間：月～金曜日 9:00～18:00

土曜日 9:00～17:00

〈ご高齢のお客様専用〉

**0120-147-369** (通話料無料)

(祝日、12/31～1/3を除く)

※ プライバシー保護のため、お問合せは契約者ご本人からお願いいたします。※ お電話をいただく際には、証券記号番号または契約番号をお知らせください。  
※ ニッセイコールセンターへのお電話の内容は、当社業務の運営管理およびサービス充実などの観点から、録音させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

窓口でのお問合せ

右記のQRコードを読み取ると、ニッセイ・ライフプラザの住所・地図等の店舗情報をご確認いただけます。

※QRコードは(株)デンソーウェーブの商標です。

